

下水道管路管理技術施工展2023高知開催

井坂 昌博

ISAKA Masahiro

(公社)日本下水道管路管理業協会
常務理事

1. 管更生工法分野最大の施工展

下水道管路管理技術施工展(第22回)が10月19日(木)に高知県高知市にある高知ちばさんセンターで開催された。中国四国地方での開催は、2015年の倉敷で実施して以来8年ぶりである。

これまでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、一昨年の北海道の開催が中止となった他、昨年は検温と消毒を行いマスク着用を基本とする等の基本的な感染対策を実施した上で開催をしたが、今年は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、特別な対策を実施することなく開催できた。

まず、今回の施工展の背景を述べる。管更生工法は多くの工法があるが、現在、(公財)日本下水道新技術機構の審査証明を取得している工法だけでも51工法に上るため、多くの人はその違いが分からない。しかし、土木技術という性格上、実物を見、説明を聞けば、ほぼ理解できる。この展示会は、各種工法や関連技術を一堂に会しデモ施工を実際に見てもらい、その最新の技術を体で感じてもらうと毎年全国を巡回して開

催している。

今回は、中国四国地方という今後管更生工法の発注が大きく伸びるであろうと予想されるなかでの開催ということもあり、46社・団体と過去最高の出展数となった。来場者数も1,651人と、過去10年間では最高の人出があった(写真-1)。



写真-1 会場の様子

下水道の展示会では、下水道展が最大のものであるが、屋内であることやブースの制約から全ての出展者がデモンストレーションを行うことは難しい。管更生工法においてこれほど多くの工法が一堂に会してデモンストレーションを行っているのは、この施工展以外には見当たらない。この施工展が注目を集める所以である。

2. 施工展の名称変更

20年以上前の施工展の開始当時は、管更生工法のデモ施工から始まっており、下水道業界のみならず建設関係者等多くの注目を集めた。

近年では、日本の下水道整備は概成を間



図-1 会場レイアウト

近に控え、多くの自治体は「下水道管理」の時代に突入する。そのため現在では、管更生技術のみならず、調査、点検、清掃分野の技術へと広がってきている。こうしたことを受け最近では、本展示会の展示内容も、下水管調査用機器、ロボット、ドローン、WEBシステムと多岐にわたり、管路管理技術全般の展示に変化してきている。そうしたことから、これまでの名称であった「下水道管更生技術施工展」では現在の実態にも合わず、これからの方向性にも合致していないという議論が起こったため、名称を「下水道管路管理技術施工展」に変更した。

3. 世相を映す展示内容

新たな名称を冠した施工展の開会式は、ミス日本「水の天使」の竹田聖彩^{せいあ}さんに司会をお願いし、来賓として国土交通省水管理・国土保全局松原誠下水道部長をはじめ、四国地方整備局建政部長、高知県土木部長、高知市長が忙しいスケジュールを縫って出席され、注目が集まるなかでの開催となった。主催者を代表して当協会の長谷川会長の挨拶に引き続き、松原部長をはじめとして各来賓の挨拶が行われ、管更生工法に対する期待が述べられた。テープカット（写真-2）の後は来賓の方が各ブースを見回る内覧会が催され、いよいよ開幕となった。



写真-2 開会式（テープカット）

出展団体を分類別に示したのが表-1で、管更生・修繕改築技術が中心であるが、関連技術としてマンホール改築や調査点検技術等多く出展され、その名のおり管路管理全般の展示会の様相であった。

多くの出展者が最新型の機材を展示しているなか

表-1 出展団体の分類

分類	出展社数
管更生・修繕改築	17
マンホール改築・補修 コンクリート防食被覆	6
点検・調査・診断 穿孔ロボット	12
管内洗浄・清掃	3
安全衛生管理	2
後援団体、その他	6
合計	46

で、最近の世の中で電気自動車（EV）が台頭していることを受けて、日本初のEVの強力吸引車が展示されていた。強力吸引車はエネルギーを多量に使用するため、EVには不向きとされていたが、それを乗り越えて造り上げ展示されていた。そのチャレンジな心意気は、これからのこの業界の未来を指すようであった。

展示会では、実演も行われ、1団体20分程度の枠を設け、実機を用いたデモンストレーションによって施工の手順や様子を実際に目で見て確認することができた（写真-3）。「百聞は一見に如かず」ということわざがあるが、実際に見た記憶は長く残り、強く印象付けられる。



写真-3 実演の様子

4. 他県の自治体職員の来場と 高校生を対象とした研修会の開催

今回は、四国地方というある意味まとまった地域があるので、特に四国の高知県以外の県の職員に見てもらいたいという思いから、徳島県と香川県から多くの職員がチャーターバスで来ていただいた。この施工展の目的が自治体職員への管更生工法に対する理解促進

と、発注者である自治体への管更生工法等のPRであることを考えたとき、多くの自治体職員に参加していただいたことは、今回の施工展が有意義であったと考える。

また、今年も参加していただいた方に効率的に見学していただくため、午後に3つのグループを設け、ガイドツアーを企画した。ツアーであるため効率的に回ることができ、出展者の説明があることから、参加者にとっては様々な工法を知る大変良い機会であった。

さらに高校生を対象とした研修会を開催し、学生ガイドツアーを実施した。高校生を対象とした研修会は、下水道管路管理の技術を見せる、というのではなく、学生がこの仕事に興味を持ってくれば大きな意味を持つと考えている。バスチャーター、引率・誘導者の手配、ガイドツアーのコース設定等大変な苦勞であるが、若い人の躍動感ある行動や積極的な言動を見ると、その苦勞が報われるだけでなく、逆に私たちの方が多くの刺激を受けた。

5. 大盛況の講演会

併催行事としての講演会（表－2、写真－4）を、昼の時間に水の天使の竹田聖彩さんの司会の下、会場に隣接する屋内施設において行った。当初会場の椅子を200席用意したが、多くの聴講者が会場に詰めかけ、急遽約300席にまで増やさなければならぬほどであった。聴講者は写真等を用いた講演に熱心に聞き入っていた。

講演は、国交省の松原部長から災害対応や予算、下水道事業の各種施策の話をしていただいたことに続

き、高知市の小松補佐から高知市の下水道管路管理の取り組みをお話しいただいた。

表－2 講演会プログラム

「マネジメント時代の下水道事業」		
国土交通省水管理・国土保全局下水道部長	松原	誠
「高知市における下水道管路管理の取り組み」		
高知市上下水道局下水道整備課課長補佐	小松	慶三



写真－4 講演会の様子

6. 来年の施工展へ

この展示会は、毎年当協会の7支部の持ち回りで開催されている。来年の開催場所は、東北支部の岩手県で開催することが決定している。この地域においても今後管更生工法が大きく伸びる地域であると考え、これまでになく展望のある施工展が開催できると期待される。国内最大級の広大な土地を持ち歴史と文化を物語る岩手にふさわしいものとなるよう当協会が一丸となって企画していきたい。